ライフストーリー

年齢	立場	ヒストリー・エピソード	満足度	振り返って
19	入社	高校を卒業後、日本電信電話公社へ入社		高校時代から続けてきた茶道が仕事に疲れたり、息詰まったりしたときの生き抜きの場になっている。
24	大学部卒業	社内教育機関（定員400名程度、選考試験あり：競争率10倍程）で、初めて親元を離れ、寮生活で2年間一般教養及び配属部門（営業）を学ぶ。 業務系100名中女性は6名だった。部活や行事などの参加は必	○	寮生活を共にすることで、人間関係が濃密なものになり、現在でも親交は続いている。また、社内の教育機関であったので、仕事で息詰まった時など同期に支えられたことは大変大きいと思う。
24	業務現場に復帰	長野電話局第三営業課配属。料金担当になった。	○	仕事が楽しくて仕方がなかった。
26	支社に異動	信越通信局長野支社運用課に配属	○	仕事が楽しくて仕方がなかった。 部内のテニスサークルなど上司などとも隔てなく楽しんだ。
28	本社に異動	本社営業局市場開発室市場調査部門（お客様の声を開発に生かす担当＝広報部オレンジ担当と連携）	○	仕事が楽しくて仕方がなかった。 大学部の先輩などもいて楽しい日々だった。
		NTT民営化（NTT東日本に配属）		
31	長野支社に異動（係長）	長野電話局通信コンサルタント （MIDORIのNTT展示場にて当時の最新機器を一般の方にご紹介。2年目からは、商品販売も手掛けるようになった。）	○	仕事も仲間も楽しかったが、責任も伴うことが多くなってきた。
33	長野支社内異動 広報係長	長野県を担当する広報係長として、報道・社外広報・社内広報を担当。また、女性の広報係長として女性フォーラムを開催するなど女性の活躍を推進した。 （NTTは従来から女性の活躍の場は開かれている方だったが、男女雇用均等法ができ、本社や地域でも社内・社外フォーラムが開かれていた時期）	◎	女性の広報係長として、社外も注目されたし、社内でも脚光を浴びる存在だった。 これまでの仕事をしていて楽しかったから自らの頭で考え企画することを学んだ時期。
36	上田支店に異動 企画担担当課長 （営業・広報）	初めて現場に企画担当という組織ができ、初代企画担当課長として上田支店に赴任。 新しい部署のため、何をやるか自らの仕事を作り出すとともに、現業の支援がどのようにできるか電話局の収益等どのように向上させるか検討し、年間目標を達成する任務を担うことになった。	△	管理者としての自覚がまだできていない頃だったので、管理者になってやっていけるかという思いが強く悩んだこともあった。初の企画担当といことで、支店長直属で現場との確執を生まないように気遣うことも多かった。また、支店目標達成に向けて現場からどのように成績を上げてもらえるか初年度は、特に自らの不甲斐なさとの戦いだった。

38	松本支店に異動 担当課長	テレマーケティング担当課長（課長として（任用）トラヒックを上げるためのテレマーケティングとトラヒックを新たに創造する仕事を受け持つ。（フリーダイヤルの利用促進やトラヒック測定など）、社内の優秀事例大会などに信越支社代表として選出されるなど成績を上げることができた。	△	管理者となって初めて（2係10名の部下を持つ。主査は2人とも男性、部下はテレマーケティング担当6名女性という変則な体制で女性課長として、女性の社員と面談を多くとるなど工夫をした。また、部下が概ね自分より年上という環境も特殊だった。
40	本社に異動 担当課長	営業統括部テレマーケティング担当課長（営業統括部の中では唯一の女性管理者） これまでの本社と違い、従来からある組織の考え方に慣れない部分もあり、自分としては一番苦労した。	×	これまで歩んできた仕事の在り方が本組織ではなかなか通用せず、一番苦労した。こ の時は、特に同期に支えられたという意識がある。
42	長野支社に異動 アカウントマネージャ（担当課長）	信越支社法人営業部アカウントマネージャー（AM）（長野市ほか、オリンピックを控え、大きな案件が控える中赴任した。	○	これまでも初めて部署で学ぶことも多かったが、長野市に戻りオリンピックの大きい受注など失敗できない緊張感ある職場だったが、自分の意見をきちんと言えるなど本領発揮で仕事ができた。
44	長野支社内異動 マルチメディア担当課長	マルチメディア担当兼務冬季オリンピック後の後利用に向けて長野市との協定締結に向けて契約の整備を行う。信越支社では初めての試みであり、協定締結に向けて契約書を作ることも大変な作業であった。	○	当初は、AMとの兼務で夜明けまで仕事をすることもあり、上司に直談判して教育プロジェクト担当として兼務を外してもらい、上司にも部下にも恵まれわが仕事の人生の中で最も楽しい時期だった。
	教育プロジェクト 担当課長	12年間にわたり、長野市との共同研究を行い、自らの退職に合わせて共同研究に幕を閉じた。インタ年と・活用実践コンクールで内閣総理大臣賞、本の出版。産官学の長野モデルと全国から言われるようになった。 また、NTTがバックアップして、JAET長野大会、信州フォーラムなど全国から教育工学関係のイベントを招致した。 日本教育工学協会の理事及び評議員を歴任した。	◎	ただし、他の男性課長は定期の異動で栄転していく中、私だけが置いて行かれたという感じはあったが、仕事が面白かったこともあり、教育分野を極めることになった。仕事の中での多くの先生方とのつながりができたことは私の大いなる財産となり、ここでの経験が私の人生を豊かにしているといっても過言ではない。
56	NTT東日本退職 TOSYS入社	株式会社TOSYSにて、NTT東日本の教育支援業務を実施 平成22年から3年間小学校のフォーチャースクールを支援 平成23年から3年間中学校のフォーチャースクールを支援		
60		東京都中心にICT機器導入後の授業における利活用を現場を中心にコンサルティング行っている。		